

第31回「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業報告書

事業名 自然環境との共生による中山間地域の活性化 (トレイルランニングというスポーツを通して)

鬼無里地区住民自治協議会

1. 実施概要

① 目的

地区の中心にある一夜山は、以前は小中学校の登山学習に使われていた程、地域にはなじみ深いシンボルの山です。3年前から地域住民とボランティアの協力をいただき、かつて使われていた林道を整備し、新たな登山道に復活させることができました。再びこの登山道を荒廃させないためにトレイルランニングの大会を開催し、豊かな自然環境を維持しながら地域を元気にする活動に繋げることが目的です。

② 事業の背景

鬼無里地区は、高齢化率が60%を超え長野市トップの人口減少と高齢化の進んだ中山間地域です。かつては林業が盛んで多くの林道が整備されていましたが、林業の衰退とともに林道は使われなくなり、倒木などにより荒廃しどころが道なのかわからない状態になっています。里山の環境を維持していくためには、人が山に入りやすくすることが不可欠です。できるだけ既存の登山道や林道を使用するよう定められ、地域振興にも寄与している「トレイルランニング」を通して自然環境との共生を図り、地区内外の人々と協力して登山道の整備や大会等の運営をして、持続可能な活動に繋げ、地域の活性化に寄与することが目的です。また、トレイルランニングは、一部参加規模によって環境負荷が懸念されていますが、環境負荷を与えず、地域振興のための継続的な実施が可能となるような実践モデルの構築を目指します。

③ 事業内容

- (1) 自然工法を用いた登山道の整備及びボランティアの育成
- (2) トレイルランニング大会実施のための組織づくり
- (3) トレイルランニング大会運営
- (4) 案内標識の設置及びマップの作製

2. 実施報告

① 自然工法を用いた登山道の整備及びボランティアの育成

「古道復活・環境保全・整備活動・関係人口創出」などを目的に、昨年旧鬼無里中学校特別教室棟 鬼土間から一夜山南登山口までの6kmと南登山口から山頂までの1kmを地域ボランティアと信州大学教育学部の学生、支所職員の手を借りてつなぐことができました。今シーズンも6月に除草などを行うためボランティアを募集し整備活動を実施した。SNSなどの募集に11名のボランティアが応募してくれた。そのほかに、信州大学教育学部と支所から応援いただき、冬の雪による倒木や春の雪解け時の土砂崩れ、登山道わきに伸びた草などを撤去していただいた。確実にこの間、ボランティアの皆さんの作業手順が良くなっていると感じた。

② トレイルランニング大会実施のための組織づくり

6月の整備活動に参加いただいた皆さんを中心にボランティアを募集したところ、10月に予定している「トレイルラン&トレイルメンテナンス」大会の運営への協力をお願いすることができた。コースを熟知している皆さんから大会運営にご協力いただけることは大変心強く感じた。今回は、自然工法の講義を受けながらの実践活動を含めての大会になるので、なれた皆さんを中心に組織が作れたことは大変ありがたかった。

③ トレイルランニング大会運営

今シーズンは「自然工法」を用いての整備手法を学ぶため「トレイルラン&トレイルメンテナンス」という名前の大会を開催した。当日は、あいにくの小雨模様で足元が心配されましたが、県内外から20名程が参加し開催した。必要な道具の運搬等は、信州大学教育学部を中心とした若者に担当してもらった。途中の休憩所の設営等は、支所の皆さんからご協力いただいた。大会終了後のおもてなしは、地域のボランティアを事務局で担当した。大会の終了の頃には雨も上がり、ケガをする参加者もなく全員完走することができた。

④ 案内標識の設置及びマップの作製

「トレイルラン&トレイルメンテナンス」大会では、途中、危険個所の整備や案内標識の設置を行いながら行った。若手の参加者にはボランティアとともに、背負子に案内標識や草刈り機、チェーンソーなどの道具を分けて持ってもらい登ってもらった。山頂までの16か所に案内標識を設置マップを確認しながらスプリングで取り付けることができた。マップ上に案内標識の設置個所を数字で記載し、参加者が誰でもわかるようにした。それぞれの場所で上り、下りの矢印を確認しながら設置することができた。



倒木を活用してガードを作る



案内板の設置



人力による倒木の撤去



イベントに参加した皆さん

